

1学年たより

七夕飾り

第7号

まもなく1学期終了 ずいぶん中学生らしくなりました

制服に着られているような入学式の姿から、3ヶ月。ずいぶん中学生らしい表情になってきました。たった3ヶ月ですが、確実に成長の様子が見られます。それと同時に、これからの課題も見えてきました。

「こだまでしょうか」

「遊ぼう」というと「遊ぼう」という。
 「馬鹿」というと「馬鹿」という。
 「もう遊ばない」というと「もう遊ばない」という。
 そして、あとでさみしくなって、
 「ごめんね」というと「ごめんね」という。
 こだまでしょうか、いいえ、誰でも。

クラスの仲間は、お互い長い付き合いで、気心の知れた者同士です。良くも悪くも遠慮がなく、きつい言葉を使う場面をよく目にします。本人たちは、さほど気にしていないようですが、端から見ていると、そんな言い方したらトゲがあるでしょうに、と冷や冷やします。

2011年、東北大震災のあと、繰り返しテレビで流れたCMで、とても印象的なものがありました。子どもたちの映像に合わせて、金子みすゞさんの「こだまでしょうか」という詩を朗読しているものです。当時は、直接大きな被害のなかった地域でも、漠然とした不安感に

包まれていて、そんなときに流れたこのCMは、人との絆やつなかりを深く考えさせ、強く心に残りました。「たった一言で、人は傷つく。たった一言で、人は微笑む。自分がやさしく話しかければ、きっと相手も、おだやかに答えを返してくれる。ことばは、人から人へ『こだま』します。この広告が、人と人のやさしい会話のきっかけになればと願いを込めました」当時の、CM担当者の言葉です。

言葉の力は大きくて、ほんのちょっとした伝え方の違いで、気持ちの行き違いが起こります。そして、めぐりめぐって自分に返ってきます。特に中学生になると、小学生のときは気にならなかったことも、敏感に感じ、小さな言葉に傷つきます。中学校は、そんな繊細な仲間がたくさん集まって生活している場所です。自分がきつい言葉や行動をとってしまいそうなとき、相手のせいだから自分は悪くないと「こだま」の受け手側としてとらえるのか。今、これから自分の発しようとする言葉や行動が、これから始まる「こだま」のスタートになるととらえるかで、その後の関係は変わってくるでしょう。あたたかい言葉がこだます、そんな学年に成長して欲しいと願っています。



___ __さん バドミントン上越地区大会 ダブルス第3位 団体1位 県大会出場おめでとう!

月 日	曜日	来週・再来の予定	給食	部活	下校時刻
7月10日	月	書写指導 防犯ブザー点検	○	○	18:15
7月11日	火	生徒朝会 総合学習(海岸清掃) 諸費引落日	○	○	18:15
7月12日	水	フッ化物洗口	○	×	15:15
7月13日	木		○	○	18:15
7月14日	金	学年朝会	○	○	18:15
7月17日	月	☉海の日	-	-	-
7月18日	火	学校評価アンケート 学校生活アンケート	○	○	18:15
7月19日	水	専門委員会 フッ化物洗口	○	×	16:45
7月20日	木		○	○	18:15
7月21日	金	体育祭結団式	○	○	18:15
7月24日	月	終業式	○	×	16:45